「学校と社会をつなぐ調査」最終調査直前イベント

SESとジェンダーは大学生活を規定するか？

2021年9月18日

知念渉（神田外語大学）
chinen-a@kanda.kuis.ac.jp

はじめに

■『「学校と社会をつなぐ調査」4時点目成果報告書』から

- 高校２年時から大学４年時にかけて、クラスが変化するほどに能力が変化することはあまりない（＝「大化け」するような人はあまりいない）。
  - 大化けした学生は、全体の0.3～1.4%
- 資質・能力の高中低クラスは、属性（性や社会階層など）と一部統計的に有意な関連が見られるものの、効果量が低く、実質的な関連はみられない。

■ 本報告の目的

- 大学生活の入り口（インプット）、大学生活の中（スループット）、大学生活の出口（アウトプット）でSESの影響はみられないのか？
  - インプット：入学した大学ランク、第二希望／浪人の選択
  - スループット：資質・能力の伸び（大学１年時→大学２年時）
  - アウトプット：大学時代・就職活動の振り返り、大学院進学

※SESの効果は男女によって異なる傾向にあるので、男女の違いにも着目する。

報告の内容

- SESとは？
- 本調査のデータの特性――PISA調査との比較・脱落ケースの分析
- スループットの規定要因分析

  大学4年間における資質・能力の変化とSES×ジェンダー
- インプット・アウトプットの規定要因分析

  大学入学・卒後の生活とSES×ジェンダー
- まとめ

SESとは？

- Social Economic Statusの略語
  - 家庭の社会経済的背景
- 具体的な算出方法（本調査における操作的定義）
  - 大学入学時のタイミングで尋ねた両親の学歴・世帯年収
    - それら３つの変数を標準化し、合成

      （いずれかの変数が欠損値の場合には、それ以外の変数から算出）
    - それを高／中／低に三分割（⇒分布は右上の通り）
    - ただし、世帯年収が「わからない」と答えた回答が多かったため、両親の学歴が大きく反映されている。結果的には、おおよそ次のように考えて差し支えない
    - SES High = 両親大卒、SES Middle ＝どちらかが大卒、SES Low = 両親非大卒

	SES		
	Low	Middle	High
両親大卒	0.0%	0.0%	92.6%
どちらかが大卒	14.0%	94.3%	7.4%
両親非大卒	86.0%	5.7%	0.2%
N	890	812	819

➢ お茶の水女子大学（2014）『平成25年度　全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究』を参照。

本調査のデータの特性――PISA調査との比較／脱落・継続の比較

	PISA		本調査	
	母の学歴	父親の学歴	母の学歴	父親の学歴
大学院	1.1	2.8	2.1	8.7
大学	25.5	41.3	32.1	57.1
短大・高専／短大・専門	24.4	8.4	38.1	9.3
高校	44.8	42.9	27.3	23.7
中学校	4.2	4.6	0.4	1.2

※PISAは短大・高専となっているのに対して、本調査は短大・専門となっている

	脱落ケース		継続ケース	
	母の学歴	父親の学歴	母の学歴	父親の学歴
大学院	2.2	9.0	1.9	8.1
大学	32.6	56.6	31.2	58
短大・専門	37.8	9.2	38.6	9.4
高校	26.9	23.9	28.2	23.3
中学校	0.6	1.3	0.2	1.2

- 全国をランダムサンプリングしたPISA2015よりも、親の学歴は高い。
- 継続ケースと脱落ケースの分布は、それほど変わらない（ただし、継続グループには女子が多い）。

大学4年間における資質・能力の変化――SES（×ジェンダー）

高2から大学4年にかけて、
SES別・男女別に見た場合、
他者理解力
計画実行力
コミュニケーション・リーダーシップ力
社会文化探究心
にどのような変化がみられるだろうか？

参考：本調査における資質・能力の操作的定義

● **資質・能力（T1, T2）**

資質・能力に関する18項目を下記のとおり尋ねた。
「最近のあなたをふり返って、下記の事柄がどの程度身についたと感じますか」（5件法）

(1) 計画や目標を立てて日々を過ごすことができる
(2) 社会の問題に対して分析したり考えたりすることができる
(3) リーダーシップをとることができる
(4) 図書館やインターネットを利用して必要な情報を得たりわからないことを調べたりすることができる
(5) 他の人と議論することができる
(6) 自分の言葉で文章を書くことができる
(7) 人前で発表をすることができる
(8) 他の人と協力して物事に取り組める
(9) コンピュータやインターネットを操作することができる
(10) 時間を有効に使うことができる
(11) 新しいアイディアを得たり発見したりすることができる
(12) 困難なことでもチャレンジすることができる
(13) 人の話を聞くことができる
(14) 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる
(15) 人に対して思いやりを持つことができる
(16) 忍耐強く物事に取り組むことができる
(17) 異文化や世界に関心を持つことができる
(18) 自分を客観的に理解することができる

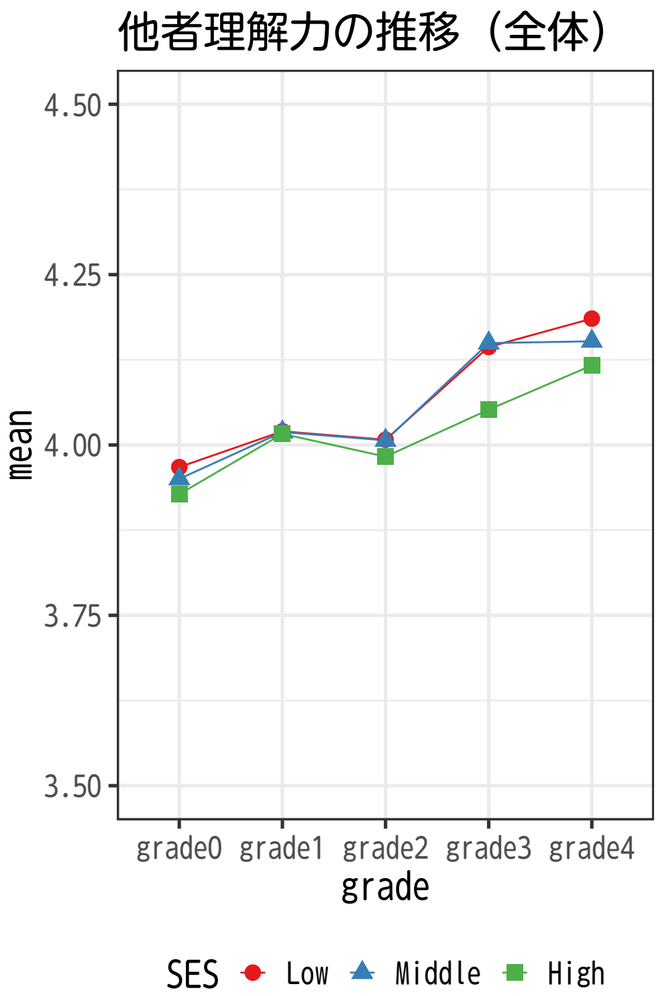
本研究では、因子分析の結果を見て4因子で整理し、因子負荷の高い項目を用いて加算平均をし分析をおこなった。

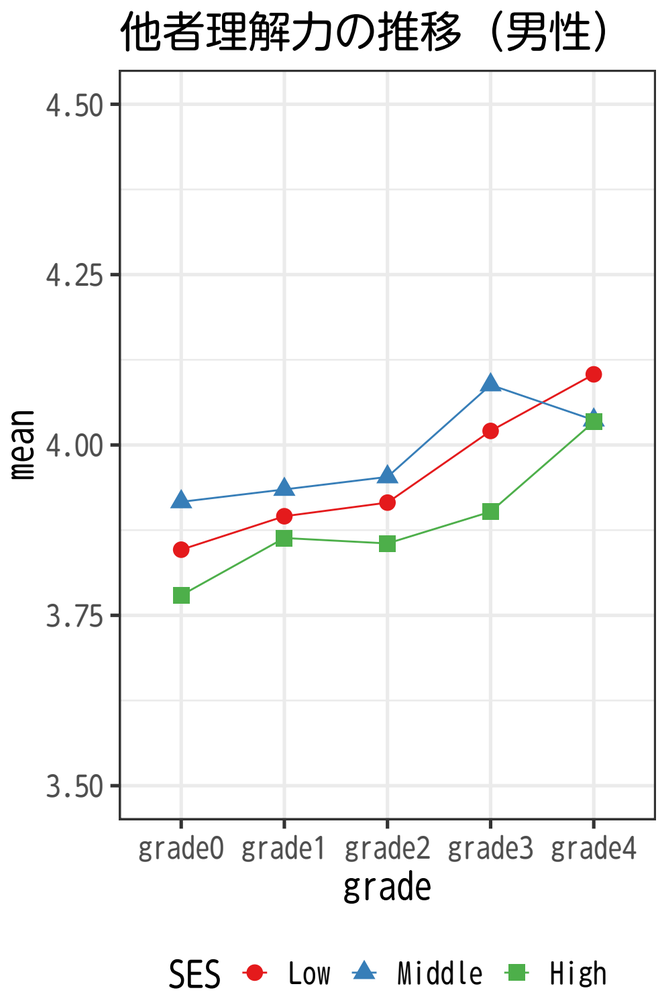
(1) 他者理解力：項目(13)(14)(15)の加算平均。α=.77 / .80*
(2) 計画実行力： 項目(1)(10)(12)(16)の加算平均。α=.77 / .76
(3) コミュニケーション・リーダーシップ力：項目(3)(5)(6)(7)(8)の加算平均。α=.81 / .79
(4) 社会文化探究心：項目(2)(4)(17)の加算平均。 α=.61 / .54

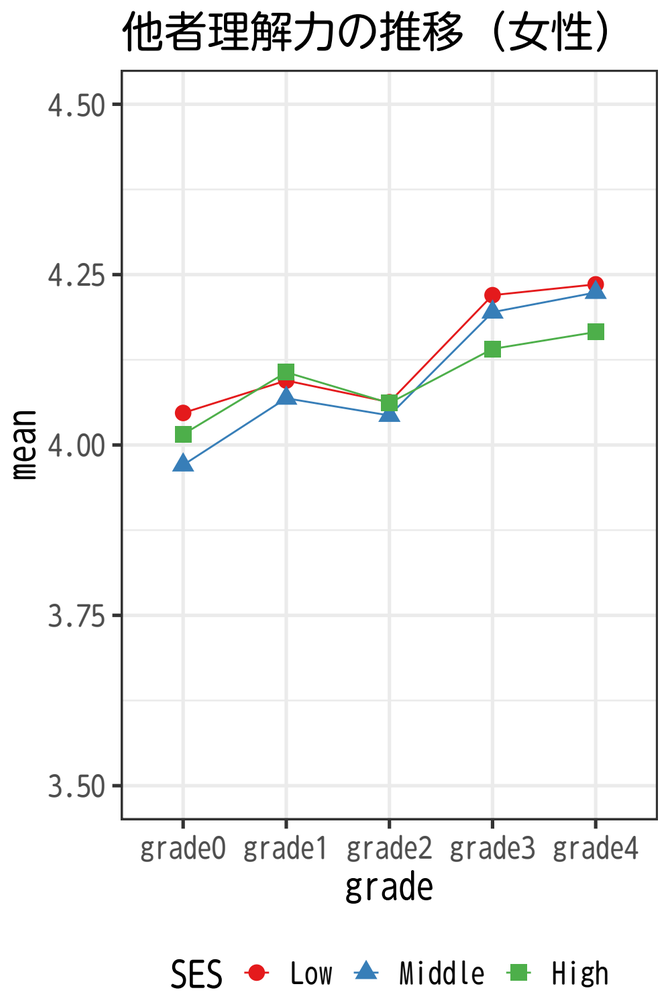
*T1 /2の順で示す。以下同様
*項目(9)(11)(18)は因子分析の結果、因子負荷量が低く、分析から除外している。

■ 河合塾（2017）『「学校と社会をつなぐ調査」2時点目成果報告書』付録より

他者理解力

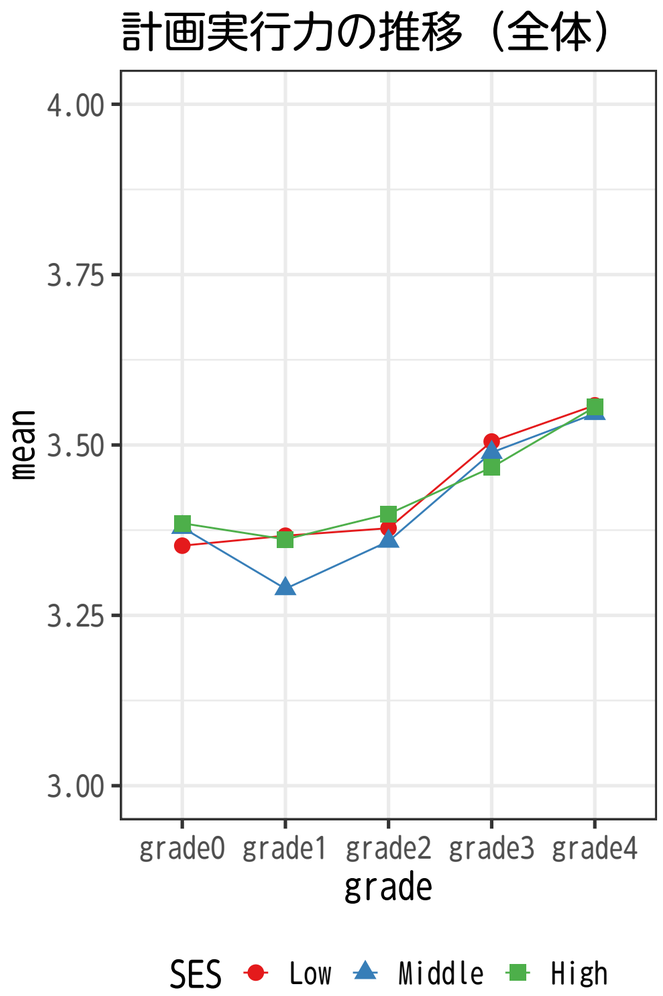


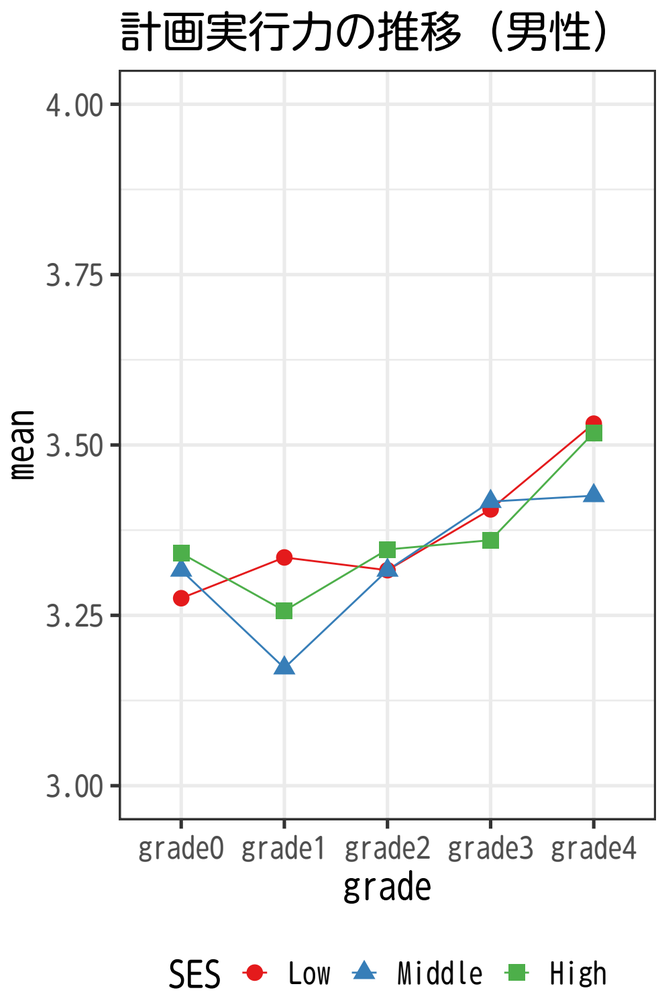


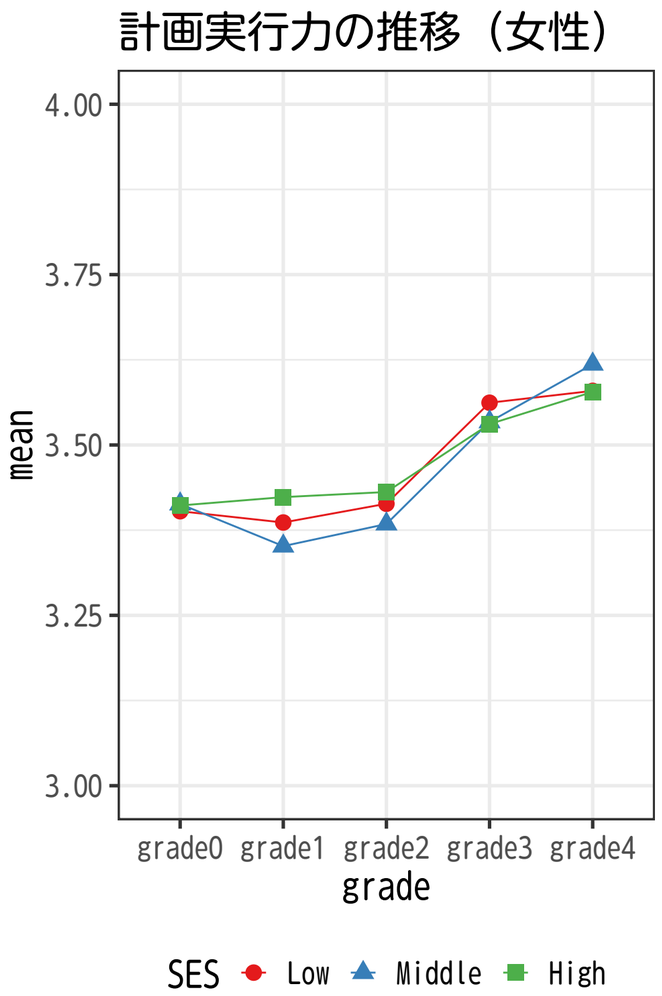


- Lowグループが相対的に伸びている。
- 平均的に男性よりも女性の方が高い。

計画実行力

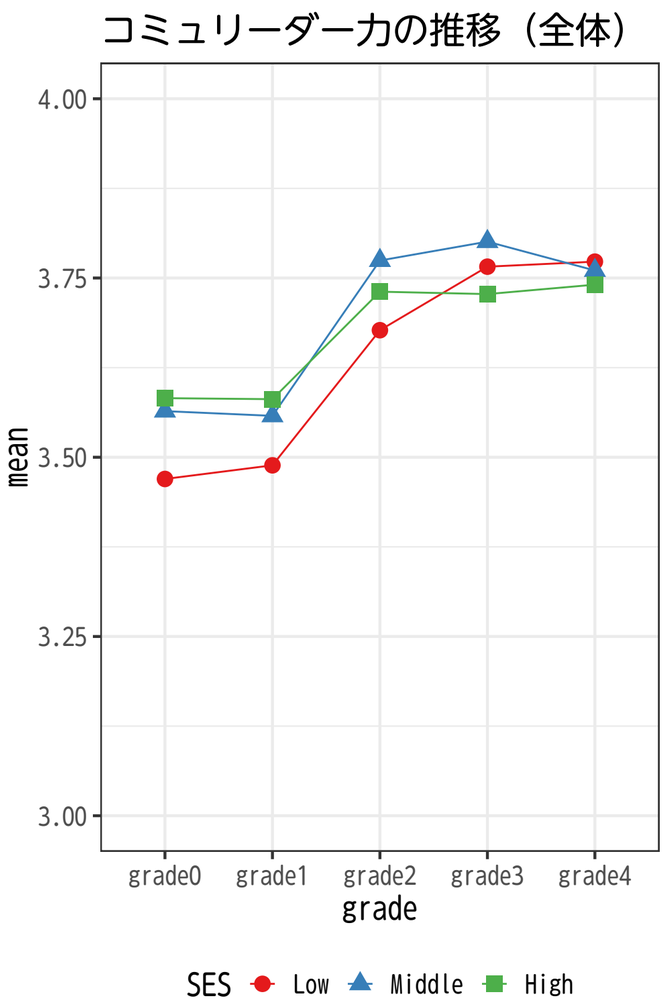


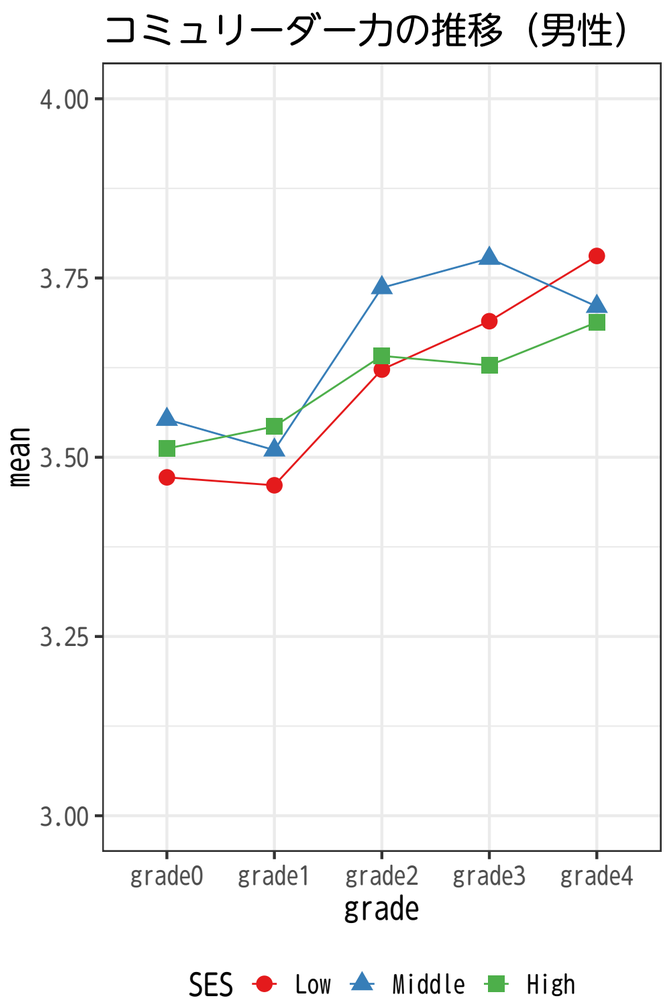


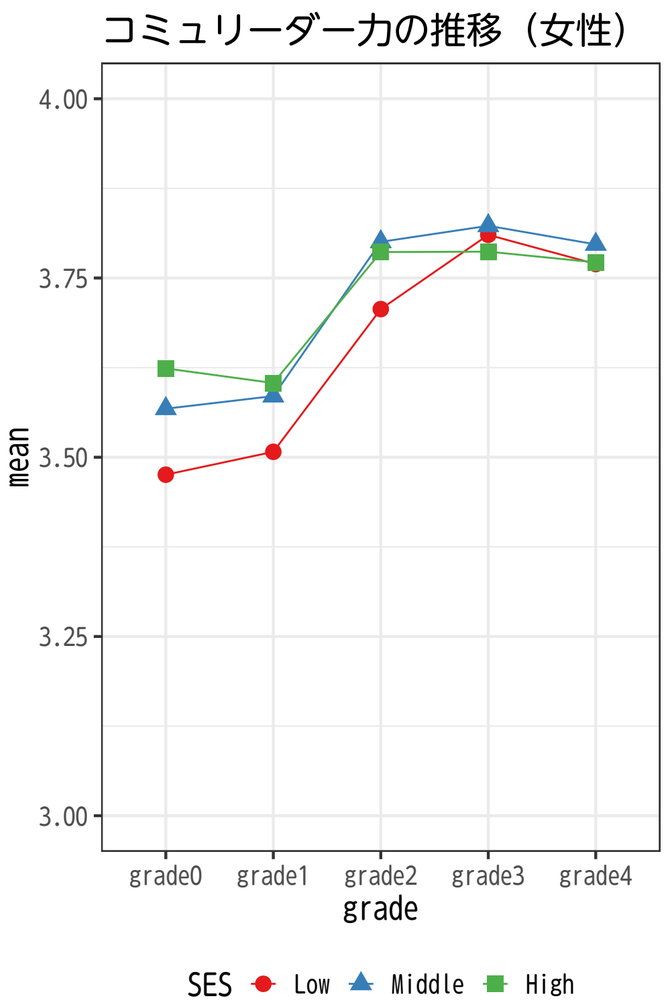


- Highグループの大学1年時の下がり方が目立つ(特に男子)。
- 平均的に女子が高い傾向。

コミュニケーション・リーダーシップ力

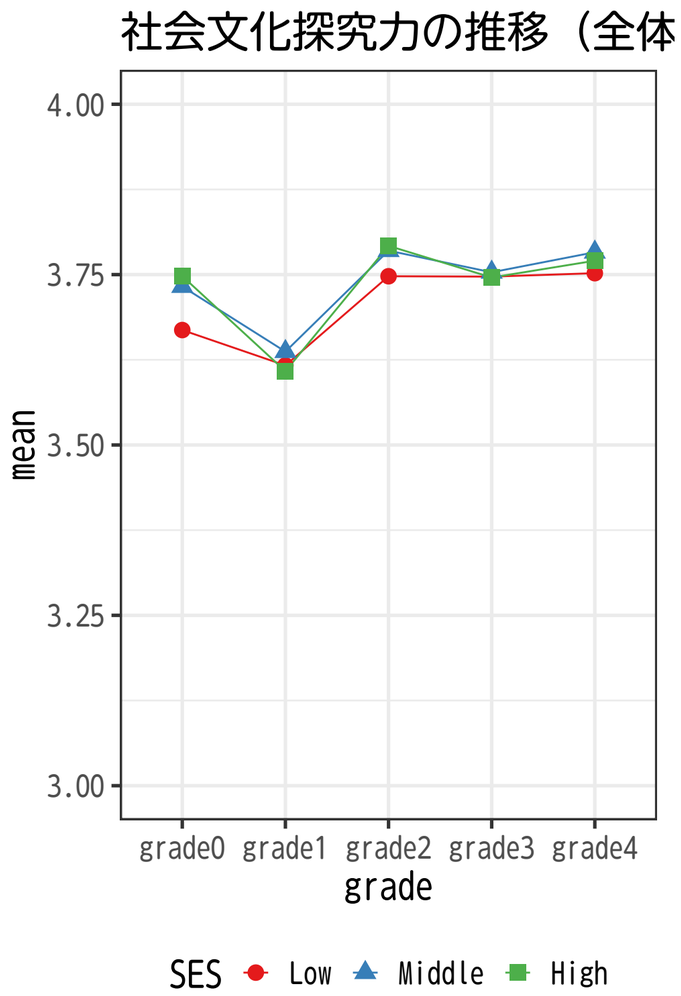


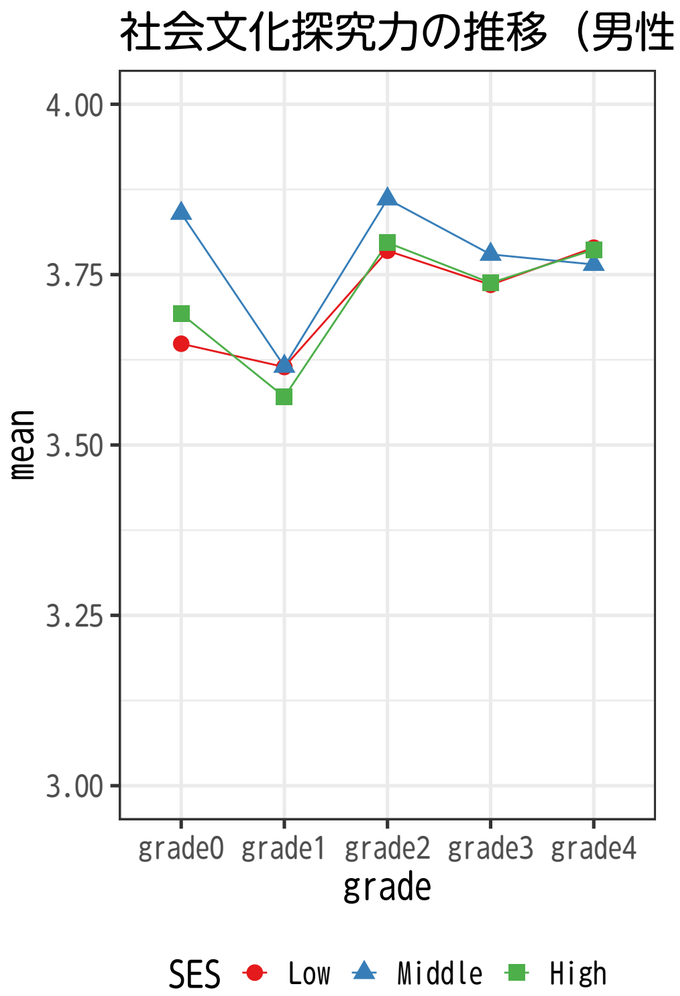


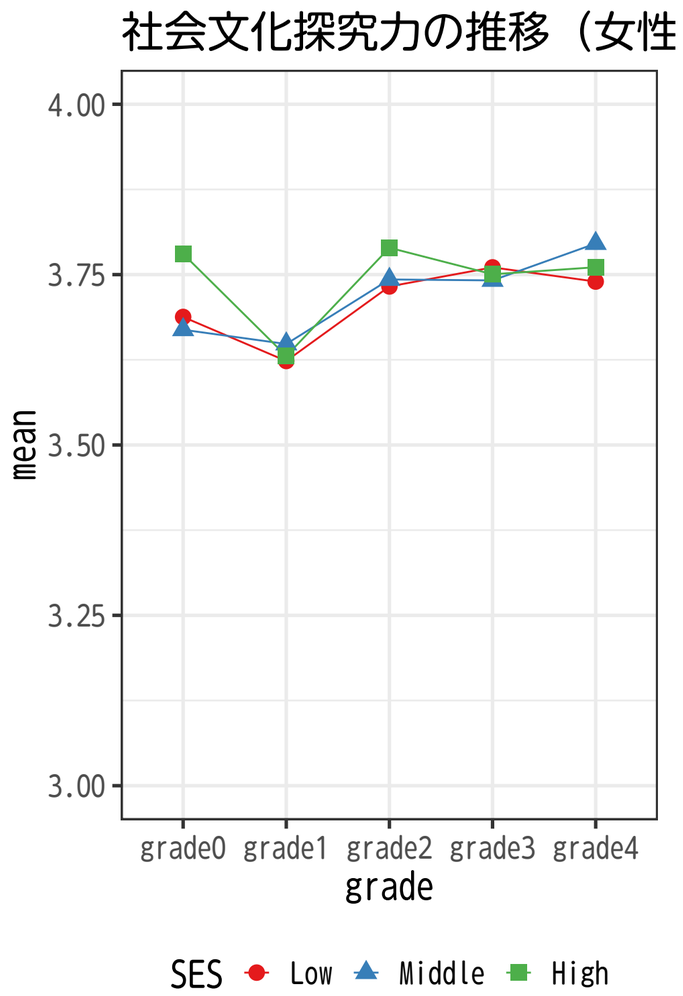


- Lowグループにおいて伸びが顕著（とくに男子）

社会文化探究心







■ 高2時点から大学1年時点で下がる以外に、明確な傾向が見出せない。

回帰分析の結果

	他者理解力			計画実行力			コミュニケーション・リーダシップカ			社会文化探究心		
	Beta	信頼区間	*p*	*Beta*	信頼区間	*p*	*Beta*	信頼区間	*p*	*Beta*	信頼区間	*p*
(Intercept)	3.20	2.9, 3.4	**<0.001**	2.30	2.1, 2.5	**<0.001**	2.30	2.1, 2.5	**<0.001**	2.30	2.1, 2.6	<0.001
女子ダミー	0.14	0.01, 0.27	**0.04**	0.12	-0.02, 0.26	**0.089**	0.10	-0.02, 0.23	0.11	0.05	-0.08, 0.19	0.5
SES Lowダミー	0.10	-0.04, 0.24	0.2	0.10	-0.05, 0.25	0.2	0.15	0.01, 0.29	**0.032**	0.09	-0.06, 0.24	0.2
SES Middleダミー	0.04	-0.10, 0.19	0.6	0.02	-0.13, 0.18	0.8	0.05	-0.09, 0.19	0.5	0.00	-0.16, 0.15	>0.9
三大都市圏出身ダミー	-0.02	-0.09, 0.05	0.5	-0.05	-0.12, 0.03	0.2	-0.03	-0.10, 0.04	0.4	0.01	-0.06, 0.09	0.7
出身高校のランク（A～C）	0.02	-0.03, 0.07	0.4	-0.02	-0.07, 0.03	0.5	0.01	-0.04, 0.05	0.7	0.01	-0.04, 0.06	0.7
中高一貫ダミー	0.08	-0.02, 0.19	0.13	0.10	-0.01, 0.21	**0.071**	0.03	-0.07, 0.13	0.5	0.06	-0.05, 0.17	0.3
大学のランク（A～D）	-0.03	-0.07, 0.02	0.2	-0.03	-0.08, 0.02	0.2	-0.03	-0.07, 0.02	0.3	0.04	-0.01, 0.09	0.1
高二時点の資質能力	0.23	0.18, 0.27	**<0.001**	0.39	0.34, 0.43	**<0.001**	0.40	0.36, 0.44	**<0.001**	0.32	0.27, 0.37	**<0.001**
SES Lowダミー×女子ダミー	-0.04	-0.22, 0.13	0.6	-0.14	-0.32, 0.05	0.2	-0.12	-0.29, 0.05	0.2	-0.09	-0.27, 0.09	0.3
SES Middleダミー×女子ダミー	0.00	-0.19, 0.18	>0.9	0.00	-0.19, 0.20	>0.9	-0.04	-0.22, 0.13	0.6	0.06	-0.13, 0.25	0.5
R二乗値		0.061			0.139			0.162			0.105	
ケース数		1,736			1,737			1,737			1,737	

※太字は有意確率が0.1未満

- 女子は、どの資質・能力でも伸びている傾向が読み取れる。
- （男子は）SES Lowの場合に資質・能力が伸びている傾向が読み取れる。

インプット・アウトプットの規定要因分析
――SES（×ジェンダー）

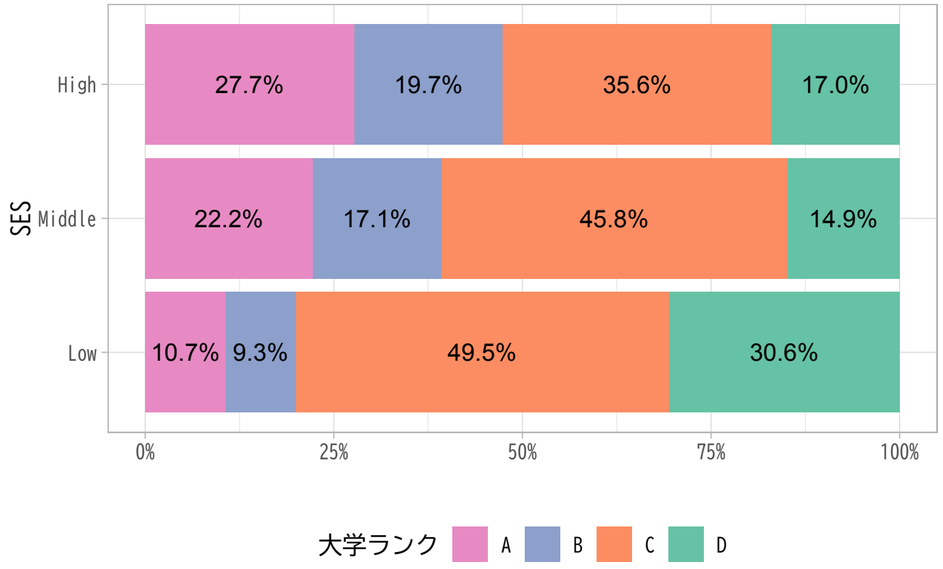
入学した大学の偏差値ランク、
大学4年間を振り返ったときの満足度、
就職活動を振り返ったときの満足度、
大学院進学
は、
SES×ジェンダー×資質・能力
に規定されているか？

インプット:大学の入学難易度

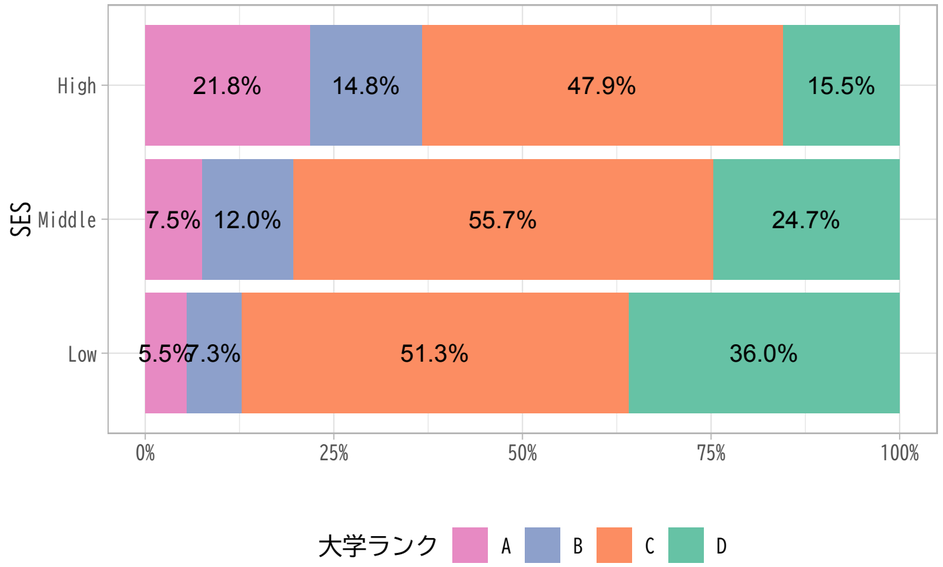
	大学ランク		
	Beta	信頼区間	*p*
(Intercept)	2.20	1.9, 2.5	**<0.001**
女子ダミー	-0.18	-0.26, -0.10	**<0.001**
SES Lowダミー	-0.34	-0.43, -0.24	**<0.001**
SES Middleダミー	-0.19	-0.29, -0.09	**<0.001**
三大都市圏出身ダミー	0.00	-0.08, 0.07	>0.9
出身高校のランク（A～C）	0.43	0.38, 0.48	**<0.001**
他者理解力　高２	-0.12	-0.18, -0.06	**<0.001**
計画実行力　高２	0.14	0.09, 0.20	**<0.001**
コミュニケーション・リーダーカ　高２	0.02	-0.04, 0.08	0.50
社会文化探究心　高２	0.09	0.03, 0.15	**0.002**
R二乗値		0.248	
ケース数		1,739	

※太字は有意確率が0.1未満

SESと大学ランク（男性）



SESと大学ランク（女性）



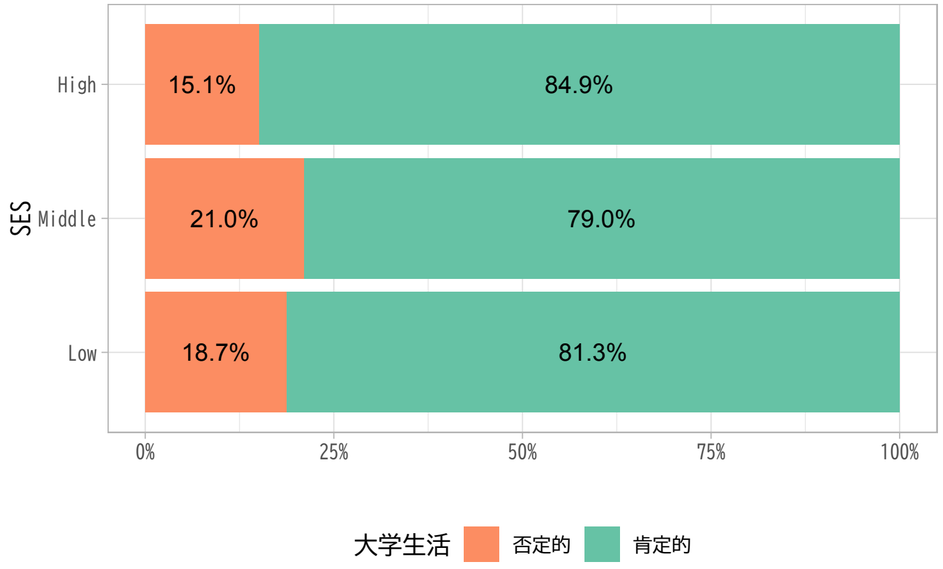
- 大学ランクへのSESおよびジェンダーの影響力は強い。
  - SESとジェンダーの交互作用効果はみられず。
  - 浪人を入れると、より強まるかもしれない。

アウトプット：大学生活を振り返って

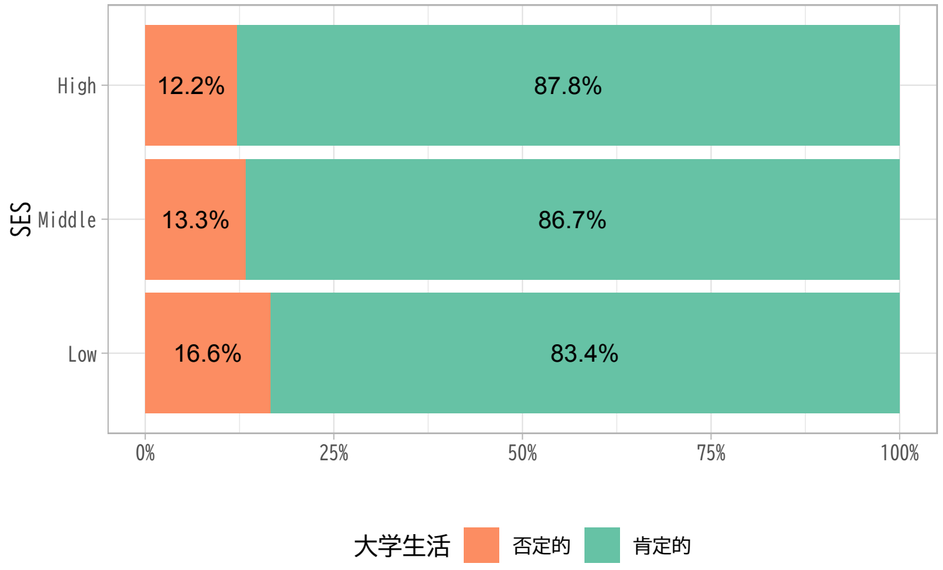
	大学生活		
	OR	信頼区間	*p*
(Intercept)	0.04	0.01, 0.11	**<0.001**
女子ダミー	1.28	0.97, 1.70	**0.08**
SES Lowダミー	0.78	0.55, 1.11	0.20
SES Middleダミー	0.91	0.63, 1.30	0.60
三大都市圏出身ダミー	1.04	0.79, 1.38	0.80
出身高校のランク（A～C）	0.82	0.68, 1.00	**0.05**
大学のランク（A～D）	1.37	1.14, 1.65	**<0.001**
他者理解力　大４	1.06	0.84, 1.34	0.60
計画実行力　大４	2.41	1.97, 2.96	**<0.001**
コミュニケーション・リーダー力 大４	1.51	1.18, 1.93	**0.00**
社会文化探究心　大４	0.90	0.72, 1.12	0.30
AIC		1,348	
ケース数		1,720	

※太字は有意確率が0.1未満

SESと大学生活（男性）



SESと大学生活（女性）



- 出身高校ランク、大学のランク、計画実行力、コミュニケーション・リーダー力が有意。
  - 女子であることも、やや有意

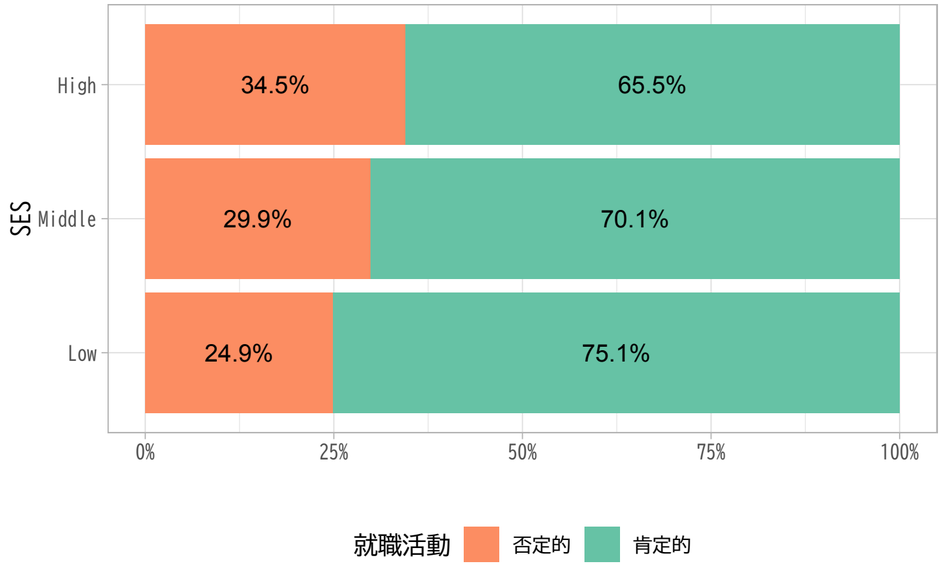
アウトプット：就職活動を振り返って

	就職活動		
	OR	信頼区間	*p*
(Intercept)	0.71	0.24, 2.16	0.50
女子ダミー	0.95	0.71, 1.27	0.70
SES Lowダミー	0.95	0.67, 1.33	0.80
SES Middleダミー	0.87	0.62, 1.24	0.40
三大都市圏出身ダミー	1.31	1.00, 1.72	**0.048**
出身高校のランク（A～C）	1.02	0.85, 1.23	0.80
大学のランク（A～D）	0.99	0.83, 1.18	0.90
他者理解力　大４	0.70	0.55, 0.89	**0.004**
計画実行力　大４	1.77	1.45, 2.16	**<0.001**
コミュニケーション・リーダー力 大４	1.92	1.51, 2.47	**<0.001**
社会文化探究心　大４	0.64	0.51, 0.79	**<0.001**
AIC		1,351	
ケース数		1,182	

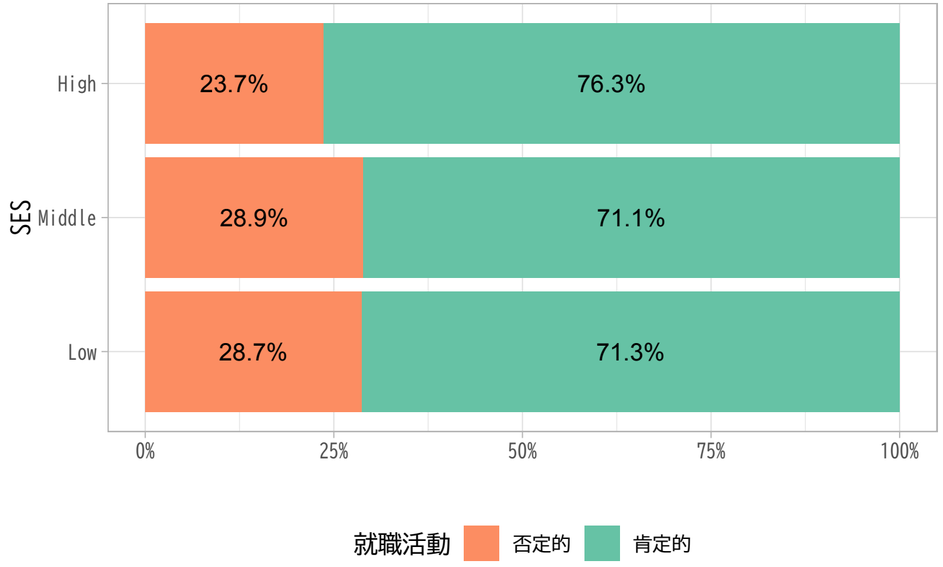
※太字は有意確率が0.1未満

- 計画実行力とコミュニケーション･リーダー力が高いと就職活動を「肯定的」に捉えやすく、他者理解力と社会文化探究心が高いと「否定的」に捉えやすい。
  - 就職活動と相性の良い／悪い資質・能力がある（他者理解力と社会文化探究心が負の影響をもっているのは、確かに日本の就職活動を反映しているように思えるが、大学院進学に対しても、同じように働いているので、よくわからない）

SESと就職活動（男性）



SESと就職活動（女性）

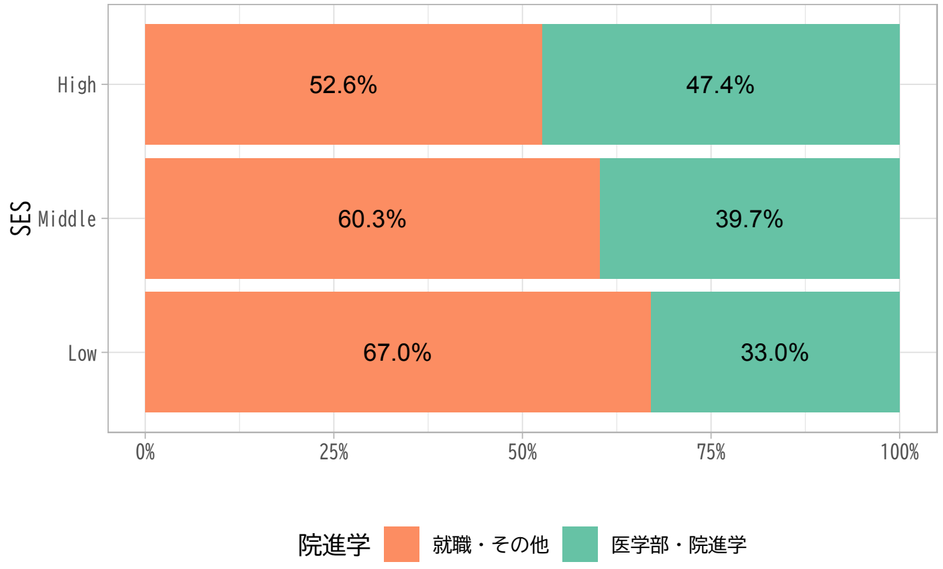


アウトプット：大学院・医学部への進学

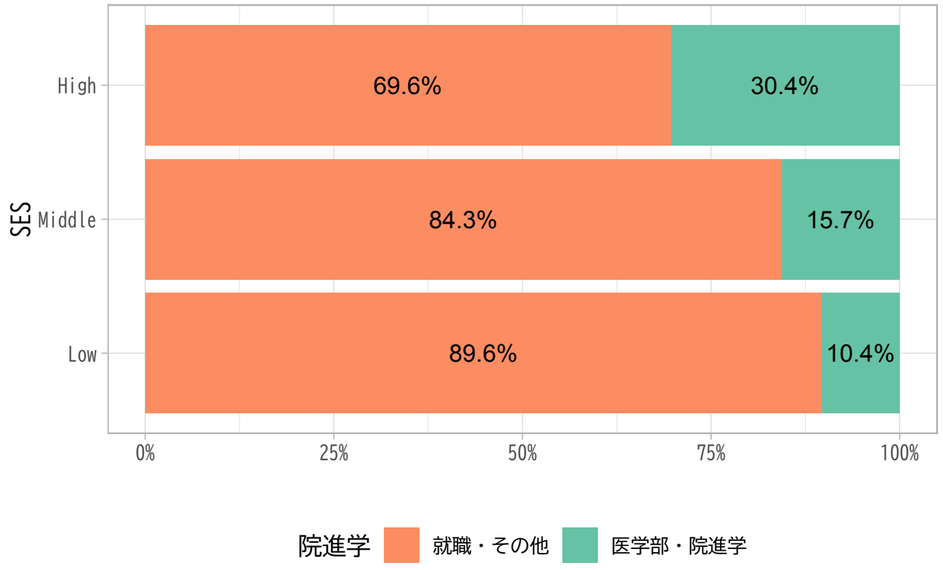
	就職活動		
	OR	信頼区間	*p*
(Intercept)	0.24	0.11, 0.56	**<0.001**
女子ダミー	0.33	0.26, 0.42	**<0.001**
SES Lowダミー	0.60	0.45, 0.81	**<0.001**
SES Middleダミー	0.67	0.50, 0.89	**0.005**
三大都市圏出身ダミー	0.95	0.75, 1.21	0.70
出身高校のランク（A～C）	1.38	1.18, 1.61	**<0.001**
大学のランク（A～D）	1.50	1.31, 1.72	**<0.001**
他者理解力　大４	0.76	0.62, 0.93	**0.007**
計画実行力　大４	1.52	1.26, 1.83	**<0.001**
コミュニケーション・リーダーカ 大４	0.96	0.77, 1.19	0.70
社会文化探究心　大４	0.81	0.67, 0.98	**0.031**
AIC		1,786	
ケース数		1,742	

※太字は有意確率が0.1未満

SESと大学院進学（男性）



SESと大学院進学（女性）



- 女子であること、SESが低いことが明確に大学院・医学部への進学を制約している。
- 計画実行力が高いことが正の影響を与えている。

まとめ

見出された知見

- スループット
  - 資質・能力の伸びにSESが与える影響は少ない。
  - 女子は、男子に比べて資質・能力の伸びが高い傾向にある。
- インプット
  - 入学する大学のランクは、SESとジェンダーに強く規定されている。

  （今回は示していないが、浪人選択もSESとジェンダーに規定される。）
- アウトプット
  - 大学生活の肯定感や就職活動の肯定感にSESとジェンダーはあまり影響を与えない。
  - ただし、大学院・医学部進学の選択は、SESとジェンダーに強く規定される。

知見から得られる示唆

- SESとジェンダーの影響は、ソフト面（意識、資質・能力）では見られないが、ハードな面（大学ランク、進学）では強固に存在する。とくに女子は資質・能力が高いにもかかわらず、まだまだ大きな不利を抱えている。
- なぜそのようなギャップが生まれるのか？
  - 準拠集団の違いによるものか？（ロバート・K・マートン，森東吾ほか訳 『社会理論と社会構造』みすず書房）

  ＝SES低と比べて自分を位置付けるか、SES高と比べて自分を位置付けるかの違い

  例：「高卒の親より、私は良い生活を送ることができている」